

「おたがいさまコミュニティ」形成手法の開発プロセス

～協働で課題解決できるコミュニティ形成の実証実験から

小川 全夫、南 伸太郎

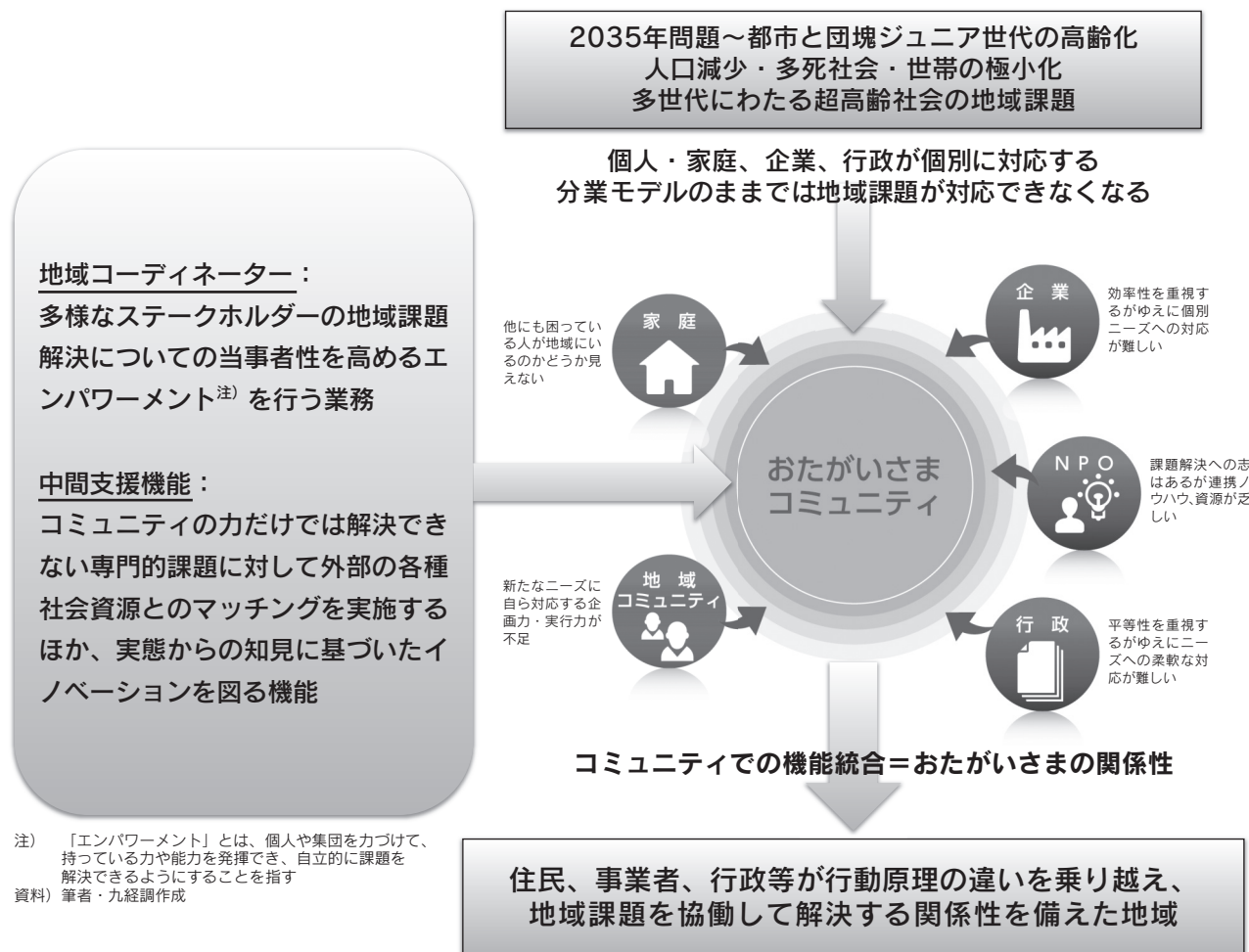
はじめに

今後ともさらに進行する超高齢社会にむけて、地域コミュニティには様々な期待が寄せられている。しかし多くの地域では、地域の問題に対して、地域住民の誰もが傍観者的な無関心におちいる「コミュニティの多元的無知¹⁾」の状態が強まっているのが実情である。このままでは、旧来からの要援護者への制度的な支援しかできず、超高齢社会に生じる複合的な地域課題に対応できない状況が深刻化することが懸念される。

この状態を改善するために、特定非営利活動法

人アジアン・エイジング・ビジネスセンター（福岡市）と公益財団法人九州経済調査協会（福岡市）、福岡市の3者および、共同研究のパートナーである福岡市社会福祉協議会からなる研究グループでは、2012年10月から2015年9月までの3年間をかけて、住民・事業者（民間企業、社会福祉法人、学校法人、NPO法人など）・行政が協働し、内発的に地域課題を発見・解決できる関係性を備えた地域（呼称：おたがいさまコミュニティ）を形成するには、いかなる支援が有効なのかを実証し、手法開発を行ってきた（図1）。

図1 おたがいさまコミュニティのイメージ図



注) 「エンパワーメント」とは、個人や集団を力づけて、持っている力や能力を発揮でき、自立的に課題を解決できるようにすることを指す
資料) 筆者・九経調作成

1) 何らかの課題に対して、誰かが解決してくれるという根拠のない期待を人々が抱いたり、何をしてもしなくても事態はかわらないと人々が思いこむこと